

## 3.11 の以後、「変わったこと」

### 1. 人との関係について

#### ○「人とのつながり」を重視するようになりました

「家族の大切さを感じるようになった」

「朝家族と別れるときに『これが最後かも知れない』と思うようになった」

「自分の脇にいてくれる人が欲しくなった」

「収入の多さよりも家族を思う人と結婚しようと思うようになった」

「他者とのつながりを考えるようになった」

「友人がボランティアをするようになった」

「千円を募金した」

「非常時にはひとりで頑張れる自立心が必要と思う反面、誰かと一緒にいたいという気持ちも強まった」

#### ○「人とのつながり」の背景に「死」を思うようになった人がいます

「もし自分が死んだらみんなは悲しんでくれるのだろうか考えるようになった」

「人の心に残る人になるようになりたいので、笑顔でいるように努めるようになった」

「親しい人が死んでしまうと悲しい、だから、人と親しくならないようにする、と考えるようになった友人がいる」

### 2. 人生・日々の行動について

#### ○「平穏な日々」の貴重さに気づきました

「幸せの沸点が下がり、普通の喜びを幸福と感じるようになった。かつては、何も起きない平和な毎日を嘆いていた」

「自分は恵まれていると思うようになった」

「家族友人恋人会えるという毎日だけで、幸せと思えるようになった」

「一日一日を大切にしようと思うようになった」

「平凡な幸せを強く思うようになった」

「住む家と働く場所があれば十分なのだと思うようになった」

#### ○「時間の有限性」に敏感になりました

「今やらないとやれないときが来るかも知れないと思うようになった」

「明日何が起きるか分からないから、いま頑張るようになった」

「とにかく今を精一杯生きることが大切と思うようになった」

「死を思うと、今を全力で生きようと思うようになった」

「将来も大切だけど、まず、いまを楽しむようにしようと思うようになった」

「人生は死と隣り合わせだと言うことが分かった」

一方、少数ですが、「地震の後、虚無感と絶望感で、投げやりになった」という人もいました。

### 3. エネルギー・モノなどについて

#### ○「省エネ」「エネルギーのあり方」についての関心が高まりました

「省エネに気を配るようになった」

「原発が必要なのか否かを自分でも考えるようになった」

「原子力発電について興味も関心もなかったのに調べるようになった」

「原発が安全なものではないと思うようになった」

#### ○その他、以下のような回答が見られました

「スーパーでは被災地の商品が他よりも安いのに売れ残っていることがあり、心が痛む」

「水道水でなく、ミネラルウォーターを飲むようになった」

「被災地の厳しさを思っって昼食を残さない人が増えた」

「歩きやすい靴を履くようになった」

「携帯電話の電池残量を気にするようになった」

「スマホに緊急地震速報を知らせるアプリを入れた」

### 4. 日本・外国・政治について

#### ○「国や政治への関心」が高くなりました

「日本人に属しているという思いが強くなった」

「政府への不安を感じるようになった」

「政治に関心が高まった」

「政府の評価をする機会が増えた」

#### ○「海外への関心」が高くなりました

「海外の人たちが助けてくれたことで、外国への印象が変わった」

「日本だけでなく海外にも視野を広げようと思うようになった」

「海外とのつながりを強く感じて、他の国の人々ともっと関わりたいと考えるようになった」

## 5. 情報・文化について

### ○「メディアの信頼性」についての関心が高くなりました

「メディアの言うことをそのまま信じなくなった」

「報道の裏の伝えられていない真実を知ろうと思うようになった」

「メディアリテラシーという意味がよく理解できるようになった」

「メディアで『安全』といってもウソなのではと思うようになった」

### ○「関心の幅」が広がりました

「何かを調べたらそれで終わりではなく、多様なメディアで関連情報を集めるようになった」

「ニュース・ドキュメンタリーを前よりも見るようになった」

「興味・関心の幅が広がった」

「知識を得ようという姿勢が強まった」

「ミクシイだけでなくツイッター・フェイスブックも使うようになった」

### 3.11 の以後、「変わらないこと」

以下については、震災後も、変わっていないと答えています。

「自分には震災は無関係だと思っている人が存在すること」

「自分が巻き込まれない限り、このままの日常が続いていくという感じ」

「一時は節電を考えたが、最近ではもとの戻った感じがする」

「政治の混乱」

「人を責め続ける報道姿勢」

「就職への不安」

「時間はそれでも流れていくのだということ」

「何があっても一列に並ぶ日本人」

「内面は変わったが、外面の行動は変わっていない」

「私の場合、三食きちっと食べて、寝る。好きなモノも嫌いなモノも変わらない」

(だけど、それが幸せなのだと思うようになった) 」

「好きな人と家庭を持って子どもをふたり欲しいという自分の願い」

調査時期 2012年1月20日 教室における会場調査法

回答者 コミュニケーション学部2～4年生・101人